○ 脳神経内科でみる病気について

髄膜炎（ずいまくえん）

神経に起こる感染症です。細菌やウイルスの感染で起こります。

症状は**頭痛**、**発熱**、**吐き気**です。**朦朧（もうろう）とする**こともあります。

早めに治療するほど良くなることが多いです。



腰椎穿刺（ようついせんし）という検査で診断します。

パーキンソン病（パーキンソン症候群）



症状として、手や足や頭のふるえ、動作が遅くなる、
転びやすくなる、などが起こります。
腰が曲がったり左右に傾いたりすることもあります。

「年のせい」だけではないかもしれません。

進んでいく病気ですが、生活に支障の無いよう薬を調整して
症状を軽くすることはできます。

パーキンソン病のような症状がある状態をパーキンソン症候群
と呼び、病気を区別するため最初に検査が必要です。

自己免疫性の神経疾患（じこめんえきせい）

本来は自分の体を守るための免疫というはたらきが、誤って自分の体を攻撃してしまい起こる病気があります。

神経のどこが攻撃されるかによって、
脱力、**しびれ**、**意識が悪くなる**、
など様々な症状が出てきます。



治療しなければ良くならないことが多いですが、免疫を調整する治療によって症状の改善が期待できます。
治療には副作用もありますが、なるべく早めに治療を始めた方が症状は良くなりやすいです。

きんいしゅくせいそくさくこうかしょう

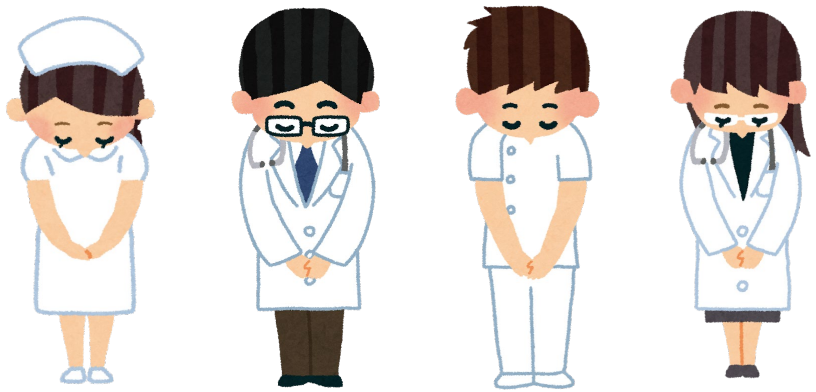
筋萎縮性側索硬化症（ALS）

運動神経が障害され、**全身の力が落ちていく**病気です。

手足、首、飲み込み、呼吸の力がいろいろな順番で落ちます。

残念ながら進むのを止める治療は開発されていません。

進行を遅らせる薬や、社会福祉制度を使って生活を支援します。



可能な限り生活をサポートいたします。

どの病気でも、怪しい症状があればまずはかかりつけ医にご相談し、当科の受診をご検討ください。